

参 考 手 本

松花鶴飛を伴う

松 花 鶴 飛 伴

成 瀬 映 山 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

高樹江雲に入る



※これは規定課題ではありません。

高 木 聖 雨 先生

# 条幅規定 ①

A部 (準五段以上)



虞世南 (唐)

『孔子廟堂碑』

②

能對。識罔象之在川。明商羊之興雨。  
知來藏往。一以貫之。但否

能く対う。罔象の川に在るを識り、商羊の雨  
を興すを明らかにす。来たるを知り往くを藏  
め、一以て之を貫く。但だ否泰に

よく回答した。魯の季桓子が井戸を掘ってみつけたもの  
を、土の怪である犢羊であるといい、水の怪である罔象  
は川に在ることを認識していたし、斉にやって来た一本  
足の鳥の商羊は、大雨をもたらす前兆であることも明ら  
かにした。未来を知り、過去をおさめるばあいは、ただ  
一つの原理ですべてを統合していた。ただ否と泰

## 【今月の課題】

「識罔象之在川明商羊之興雨知<sup>x</sup>藏往一以貫」(18字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く  
段・級を記入してください

(7月10日締切)

条幅規定 ②

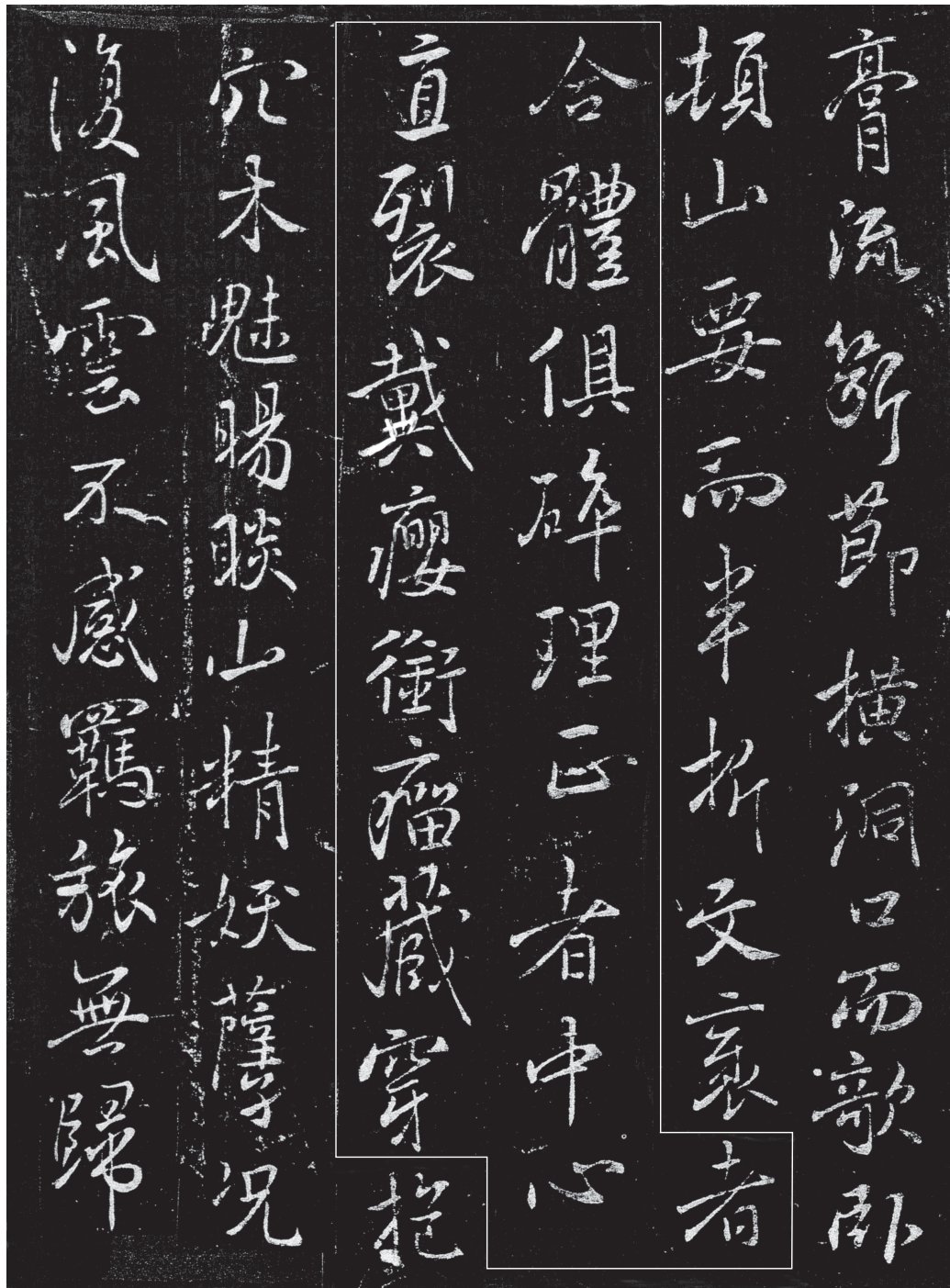
B部 (四段以下)

『枯樹賦』

楮遂良

(唐)

⑱



【今月の課題】「者合體俱碎理正者中心直裂戴癭銜瘤藏穿」(18字)

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・綴を記入して下さい

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

膏流斷節。横洞口而欹臥。  
 頓山要而半折。文衺者  
 合體俱碎。理正者中心  
 直裂。戴癭銜瘤。藏穿抱  
 穴。木魅暘睽。山精妖孽。况  
 復風雲不感。羈旅無歸。

膏は断節に流る。洞口に横た  
 わりて欹に臥し、山腰に頓れ  
 て半折す。文の斜なるは合体  
 俱に碎け、理の正しきは中心  
 より直裂す。癭を戴き瘤を銜  
 み、穿を藏し穴を抱く。木魅  
 は暘睽し、山精は妖孽す。況  
 んや復た風雲感せず、羈旅帰  
 る無く、

(7月10日締切)

半紙規定 (二)

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書  
〔二級以下〕楷書



九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

禮之宜則醴

礼の宜しきを得れば、則ち醴泉

半紙規定 (一)

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。



曹全碑 (漢・作者不詳)

周之胄武王

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕  
(7月10日締切)

条幅参考手本

窓戸迎新燕 階除集乳鷓 欲知春已暮 地上亦無花

景雲

渡辺景雲先生

窓戸迎新燕 階除集乳鷓 欲知春已暮 地上亦無花  
 窓戸新燕を迎え 階除乳鷓を集む 春すでに暮るるを知らんと欲すれば 地上亦花無し

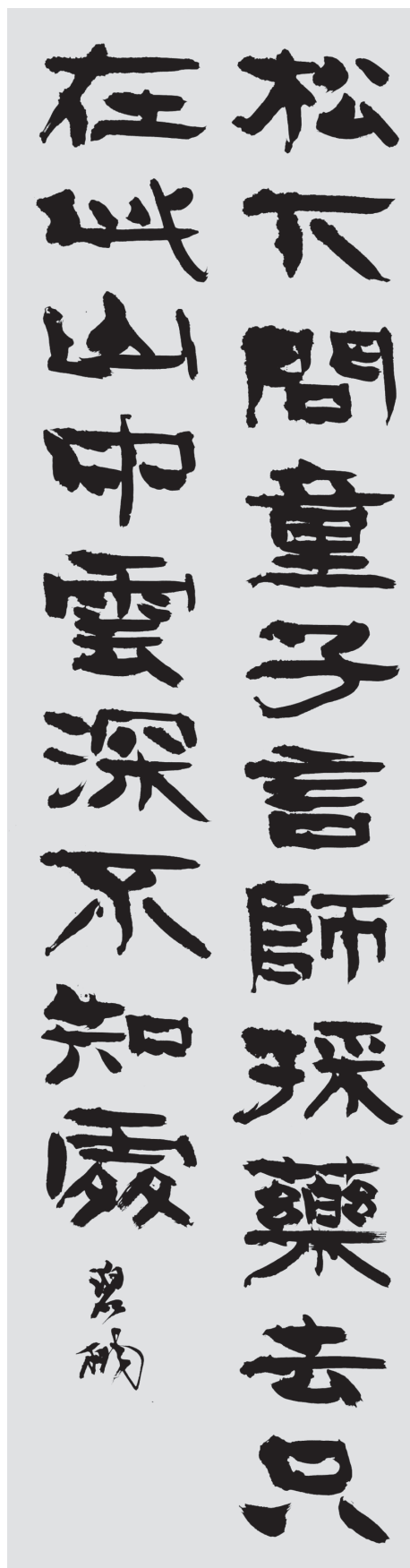
朝平霞山先生

小雨松逕寒 人歸夜深火 宿鳥栖未安 驚飛落山果

鳥栖未安 驚飛落山果

小雨松逕寒 人歸夜深火 宿鳥栖未安 驚飛落山果  
 小雨松逕寒く 人は帰る夜深の火 宿鳥栖んで未だ安んぜず 驚き飛んで山果落つ

条幅参考手本

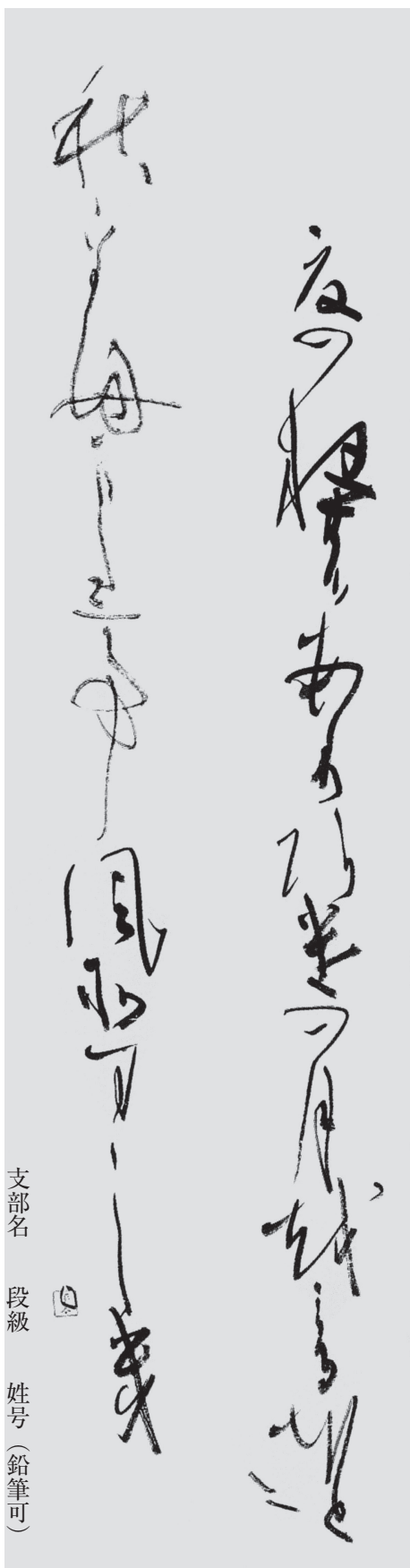


鰐渕碧桃先生

松下問童子 言師採藥去 只在此山中 雲深不知處

松下童子に問う 言う師は藥を採りに去けりと 只だこの山中に在らん 雲深くして処を知らず

条幅かな



浮乗清郷先生

夏の夜の有明の月を見るほどに秋をもまたで風ぞ涼しき (藤原師通)  
なつ よ ありあけ つき み ほどに あき かぜ すず 農 安利阿道 越三 本 二 手 母 万 多 帝 所 幾

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆可)

(7月10日締切)

半紙かな（1級以下）

初瓜<sup>はつうり</sup>やまだこびりつく花<sup>はな</sup>の形<sup>なまがた</sup>  
利<sup>り</sup>万<sup>まん</sup>堂<sup>どう</sup>日<sup>にち</sup>徒<sup>た</sup>具<sup>ぐ</sup>齋<sup>さい</sup>齋<sup>さい</sup>  
(正岡子規)

支部名 級 姓 号 (鉛筆可)  
※ちらし文字変換は自由

初瓜<sup>はつうり</sup>やまだこびりつく花<sup>はな</sup>の形<sup>なまがた</sup>  
利<sup>り</sup>万<sup>まん</sup>堂<sup>どう</sup>日<sup>にち</sup>徒<sup>た</sup>具<sup>ぐ</sup>齋<sup>さい</sup>齋<sup>さい</sup>

船久保 棠苑 先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

めぐりあひて見<sup>み</sup>しやそれともわかぬまに雲<sup>くも</sup>隠<sup>かく</sup>れにし夜<sup>よ</sup>半<sup>は</sup>の月<sup>つき</sup>かな  
免<sup>めん</sup>九<sup>く</sup>利<sup>り</sup>阿<sup>あ</sup>日<sup>にち</sup>帝<sup>てい</sup>三<sup>さん</sup>曾<sup>そう</sup>連<sup>れん</sup>母<sup>ぼ</sup>王<sup>おう</sup>可<sup>か</sup>萬<sup>まん</sup>耳<sup>じ</sup>可<sup>か</sup>禮<sup>らい</sup>二<sup>に</sup>志<sup>し</sup>可<sup>か</sup>奈<sup>な</sup>  
(紫式部) ※ちらし文字変換は自由

支部名 段 姓 号 (鉛筆可)

めぐりあひて見<sup>み</sup>しやそれともわかぬまに雲<sup>くも</sup>隠<sup>かく</sup>れにし夜<sup>よ</sup>半<sup>は</sup>の月<sup>つき</sup>かな  
免<sup>めん</sup>九<sup>く</sup>利<sup>り</sup>阿<sup>あ</sup>日<sup>にち</sup>帝<sup>てい</sup>三<sup>さん</sup>曾<sup>そう</sup>連<sup>れん</sup>母<sup>ぼ</sup>王<sup>おう</sup>可<sup>か</sup>萬<sup>まん</sup>耳<sup>じ</sup>可<sup>か</sup>禮<sup>らい</sup>二<sup>に</sup>志<sup>し</sup>可<sup>か</sup>奈<sup>な</sup>

浮乗清郷 先生

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

(7月10日締切)



実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

あゆめば蘭の花を踏みゆけば

楊梅袖に散り袂にまとふ山葛

の蔓のうら葉をかへしては女

蘿の蔭のやまいもろご

支部名 段級 姓 号

〈書風任意〉

島崎藤村詩

若菜集より

楊梅(やまもも)

女蘿(ひかげ)

渡 邊 南 嶂 先 生

(7月10日締切)

細 字



※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

邁まい 喧けん

進しん 騷そう

勢いよく進む。  
さわがしくやかましい。

(7月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

俯瞰という言葉と客観的という言葉は類似した言葉と言える。  
 支部 級 姓 号

齊藤 翫流 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…空や降り…重苦しい…。

梅雨の時期は、じつと曇った  
 空や降り続く雨が人を重苦しく  
 気持ちにさせるものです。  
 支部 級 姓 号

青柳 江雲 先生

※本院定型用紙・たて半分を書く

（7月10日締切）

中2用

支 部 名	の 大 自 然 の 美
段 級	
名	
前	

渡邊南嶂先生

中3用

支 部 名	郷 土 の 文 化
段 級	
名	
前	

大越三宗先生

小6用

支 部 名	日 強 光 い
段 級	
名	
前	

渡邊南嶂先生

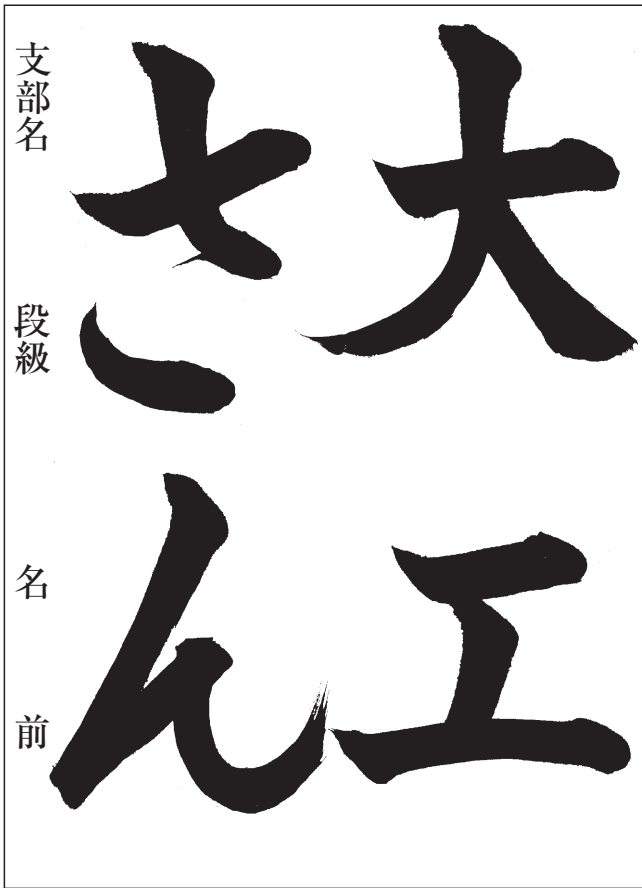
中1用

支 部 名	七 夕 星 の 夜
段 級	
名	
前	

渡邊南嶂先生

(7月10日締切)

小4用



大越三宗先生

小5用



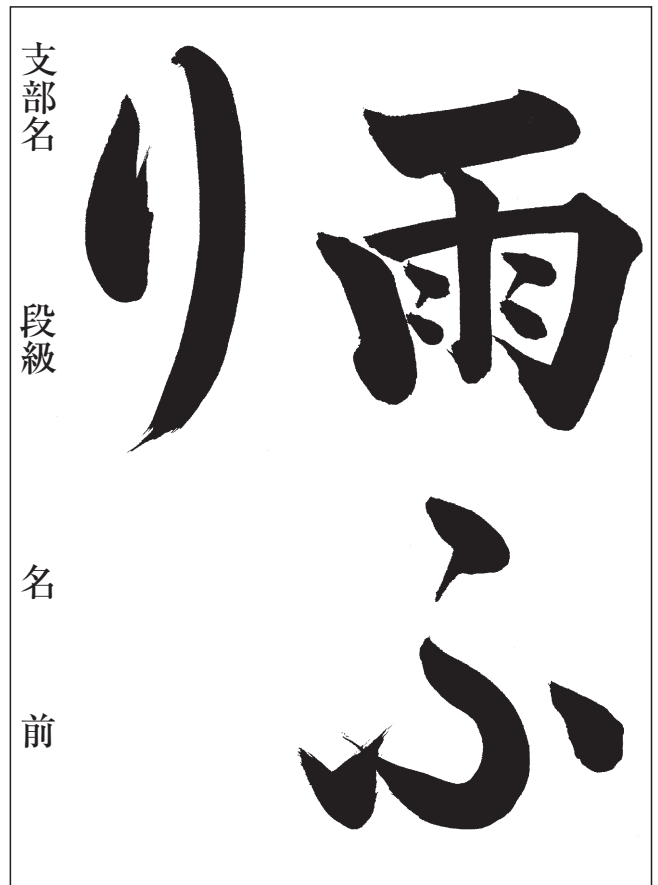
大越三宗先生

小2用



鈴木翫恵先生

小3用



鈴木翫恵先生

(7月10日締切)

中1

結果より、精一杯努力  
することが大切です。

中1~中3

中2

自然に恵まれ、四季の  
変化が美しい日本。

青柳江

中3

勉強に、運動に、絶好  
の季節が到来した。

雲先生

小1・幼年用

支部名  
段級  
名前  
前  
にわ

鈴木蕙先生

小1・幼年

やまにのぼったらか  
わがみえました。

小1~小3

小2

日よう日に、おとうさ  
んと山にのぼった。

齊藤蕙

小3

西の空が明るい。あし  
たはよい天気だろう。

流先生

小4

動物のしっぽは、色々  
な役目をしている。

小4~小6

小5

漢字は、一字一字きま  
った意味があります。

鈴木蕙

小6

日曜日に友だちの家へ  
自転車で行った。

翠先生

(7月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

支部名 段級 名前前

初夏の海  
白い雲

主幹 菅野翠濤

支部名 段級 名前前

桜貝  
長きつばさの海の  
ほ

船久保棠苑先生

※半紙半分を書いて下さい。(7月10日締切) ※半紙半分を書いて下さい。

8月10日締切課題予告

虞世南(唐)『孔子廟堂碑』

条幅規定① 弗累商王之武陳蔡爲幸斯之謂歟於是自衛

褚遂良(唐)『枯樹賦』

条幅規定② 抱穴木魅陽睽山精妖孽況復風雲不感羈旅

かな条幅規定 鳴きぬべき夕の空を郭公またれんとてやつれなかるらむ(藤原基家)

半紙規定(初段以上) 秉乾之機翦

半紙規定(二級以下) 泉出於闕庭

半紙かな(初段以上) 忘れじのゆく末まではかたければ今日をかぎりの命ともがな(儀同三司母)

半紙かな(二級以下) 夕月ゆふづきはすすしき苔こけのひほひ哉かな(岩間乙二)

8月10日締切小学生部課題予告

中三毛筆 宇宙の開発 中三硬筆 森林浴が楽しめる公園は、都市の中の聖域だ。

中二毛筆 海の記念日 中二硬筆 七月過ぎには梅雨が明け、本格的な夏となる。

中一毛筆 日本の歴史 中一硬筆 夏休みは、図書館で静かに本を読みたい。

小六毛筆 朝の空気 小六硬筆 家族で公園へ、花火大会を見に出かけます。

小五毛筆 川の上流 小五硬筆 森の中には、鳥や虫や色々な生物がいる。

小四毛筆 白い子犬 小四硬筆 夏休みに、童話の本をたくさん読みたい。

小三毛筆 貝がら 小三硬筆 目をさます前に、朝がおはさいている。

小二毛筆 デンワ 小二硬筆 なつ休みに、うみにいくけいかくを立てた。

小一・幼年毛筆 みず 小一・幼年硬筆 あさがおがさいた。きれいないるだな。

中学部かな すすしさを 竹にのこして 晴れにけり

小学部小筆 光る太陽 青い空